性は、個人的でありながら政治的なものである。人々が誰とどのような性的関係を持つかは、その時代の法によって制限されるが、性の自由を奪う政策に抗う動きも同時に見られた。この連続講座では、性の売買と性病管理政策の問題を中心に、日本、ヨーロッパ、アメリカの〈性の管理〉の歴史について論じる。

戦前の日本では、公娼制度と呼ばれる政策のもとで、性の売買の場は遊廓のみが合法とされ、公娼以外の娼婦（私娼）は厳しい取り締まりの対象となった。本講座では、その近代日本の公娼制度の概要を紹介し、公娼にされた女性たちにとって遊廓はどのような場であったのかを当時の史料から分析する（第１回）。また、公娼制度下の戦前の日本において、他国の公娼制度が当時の知識人たちにどのように認識されていたのかを紹介する（第２回）。

日本の近代公娼制度の問題は、異なる国や異なる時代における〈性の管理〉との比較によって、いっそう明確になるだろう。19世紀末から20世紀にかけて、ドイツでは性をめぐって多様な言説や運動が現れ、重層的な対立が引き起こされていた。国家や科学の権力は性の領域でどのように作動したのか、それに対してどのような対抗的動きが現れたのかを論じる。また、ハプスブルク帝国の中心的都市における娼婦や娼家の様子、売春に対する社会の主流の考え方を紹介する。さらに第一次世界大戦後、新生国家チェコスロヴァキアでみられた劇的な状況の変化の原動力が何であったかを検証する。〈性の管理〉は第二次世界大戦後も形を変えて継続する。アジアに駐留する米軍の動きは日本とも関係が深いが、米軍が韓国政府とともに基地周辺の「基地村」の性産業を管理した経緯と、「基地村」の女性たちの経験について紹介し、米軍による〈性の管理〉について考察する（第３回）。

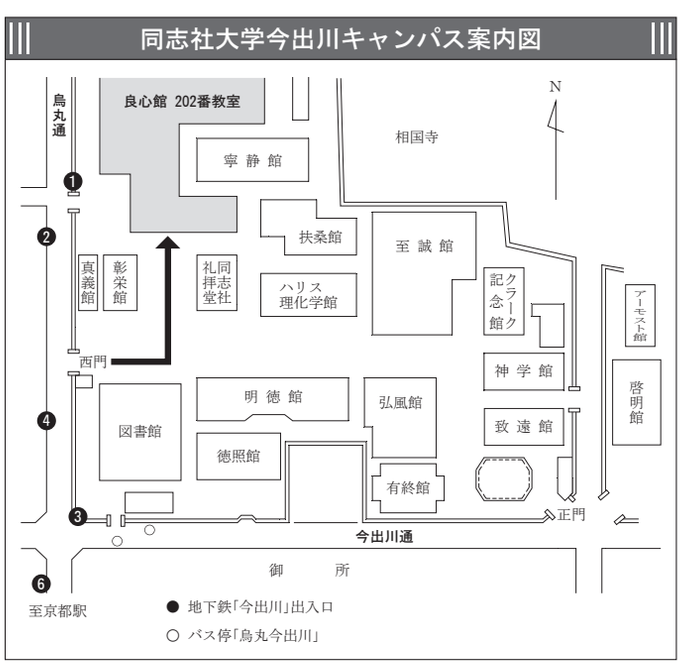
● 講師プロフィール ●

林 葉子　同志社大学人文科学研究所助教。博士（文学）。著書に『性を管理する帝国―公娼制度下の衛生問題と廃娼運動』（大阪大学出版会、2017年）他。

内藤 葉子　大阪府立大学人間社会システム科学研究科准教授。大阪府立大学女性学研究センター主任。博士（社会科学）。著書に『ヴェーバーの心情倫理―国家の暴力と抵抗の主体』（風行社、2019年）他。

橋本 信子　同志社大学法学部嘱託講師。専門は東欧地域研究、東欧現代政治。論文に「リトアニアにおけるホロコーストの記憶」「「負の遺産」をどう伝えるか 旧東独のシュタージ（国家保安省）関連施設の事例」他。

秋林 こずえ　同志社大学グローバル・スタディーズ研究科教授。博士（教育学）。近著に『沖縄にみる性暴力と軍事主義』（共著、御茶ノ水書房、2017年）他。



▼最寄駅

京都市営地下鉄烏丸線「今出川」駅

J　R
「京都」駅から地下鉄烏丸線「国際会館」方面に乗換

京阪・叡電
「出町柳」駅より西へ徒歩15分、
または市バス201号・203号で西へ約５分

近　鉄
「竹田」駅から地下鉄烏丸線「国際会館」方面に乗換

阪　急
「烏丸」駅から地下鉄烏丸線「国際会館」方面に乗換

会場へは公共交通機関をご利用ください
【駐車場はありませんので、自家用車でのご来場はご遠慮ください】